

2025年2月2日午前10時30分
降誕節第6主日 主日礼拝

司会 廣瀬一寛
奏楽 徳江由利

讚美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のあきつ)

前奏

招きのことば ゼカリヤ書 14:6-9a

讚美歌 57「ガリラヤの風かおる丘で」 一同
交読詩編 84:1-13(P.97/93)

祈り 司会者

《関東教区お祈りカレンダー》
三芳教会 所沢武蔵野教会 所沢みくに教会
(主の祈り)

讚美歌 395「建ちては崩れる」 一同

聖書 旧約:創世記 28:10-22(P.46)
新約:マタイ 21:12-16(P.24)

メッセージ『神の家、天への道』

祈り 川上 盾 牧師

讚美歌 185「旅に疲れて」 一同

献金 一同
(献金感謝の祈り)

信仰告白(ニケア信条) 一同

頌栄 347(6)

祝 禱 川上 盾 牧師

後 奏

報告・紹介

<招きのことば>ゼカリヤ書 14:6-9a

その日には、光がなく、冷えて、凍てつくばかりである。しかし、ただひとつの日が来る。その日は、主にのみ知られている。そのときは昼もなければ、夜もなく、夕べになっても光がある。その日、エルサレムから命の水が湧き出で、半分は東の海へ、半分は西の海へ向かい、夏も冬も流れ続ける。主は地上をすべて治める王となられる。

《2月礼拝当番》 廣瀬一寛 徳島恵子
猿谷富子 岩渕育雄
齋藤真理子 (大倉武子)

《今週の集会・行事》

- ◎ 本日礼拝後 うどん食堂 2月定例役員会
- ◎ 4日(火) 牧師、上毛愛隣社理事会
- ◎ 5日(水) 10:30 & 19:30 聖研祈祷会
- ◎ 7日(金) 10:30 世界祈祷日打ち合わせ会
- ◎ 8日(土) 10:00 会堂清掃 A組

《次週の主日》

- ◎ CS朝礼拝 9:15
- ◎ 主日礼拝 10:30
- メッセージ『たとえて語る理由』
- 聖書:旧約:イザヤ 6:8-12(P.1070)
新約:マタイ 13:10-17(P.24)

讚美歌 58, 225, 430, 351(4)

交読詩編 86:11-13(P.97/95)

司会:植松みよ 奏楽:徳江由利

◎ 教会報委員会 礼拝後

《予 告》

- ◎ 2・11 市民のつどい 11日(火)13:30
- ◎ “教会源10” 16日(日)礼拝後

《報 告》

◎ 2・11 市民のつどい

2月11日は戦前は「紀元節」と呼ばれ、軍国主義国家を象徴する日でした。キリスト教会では、戦後この日を「信教の自由を守る日」と呼び、戦争に反対し平和を願う日として過ごしています。今年の市民のつどいでは映画「私は憎まない」が上映されます。ガザ地区で、3人の愛娘を殺されてもお互いの可能性を信じ行動する医師のドキュメンタリーです。入場無料、ただし会場でカンパあり。

◎ 永山友美子さん トーク&ハーブの集い (3/29)

ユーモラスで心に沁みるトークと、美しいハーブの調べによるコンサート。年度末最後の伝道プログラム、ご自身の参加だけでなく、ぜひ教会に人をお誘いする機会としましょう。入場無料、ただし整理券を発行します。次週、チラシ・整理券等を用意します。

◎ 地区婦人部からのお知らせ

1月31日に前橋教会で臨時代表者会があり、次期役員がなかなか決まらない現状について、話し合いがなされました。3月14日(金)に行なわれる婦人部総会で、新たな提案がなされます。総会に出席する方は掲示板の表にご記名下さい。(2/14㍻切)

◎ オンライン礼拝の参加者アンケート

前橋教会では、オンライン礼拝に参加しておられる方へのアンケートを実施することになりました。教会員の方はもちろん、教会員以外の方にもご協力いただければと願っています。詳しくはホームページのアンケートのページをご覧ください。

◎ 玄関脇のヒバの木、伐採しました

教会の建物土台への影響を鑑み、1/25に伊藤普史さんが伐採して下さいました。

《先週の集会》

	礼拝堂	オンライン	献 金
主日礼拝	45	26	22,420
	ジュニア	シニア	幼・大人
CS午後礼拝	4	1	14
紅雲町集会	8		
			計
			19

《メッセージ》『闇のような時代に』川上牧師

イザヤ 8:23b-9:2、マタイ 4:12-17(1月26日)

▼先週行われた、とある国の代表者の就任式では、これまで人類が積み重ねてきた大切な価値観を大きく覆す宣言がいくつもなされた。気候変動への取り組みや、ジェンダーに関する人権の価値観を、大きく変更するという。地動説の時代に天動説を主張するようなその内容に、闇のような時代が来ようとしているのを感じずにはいられなかった。▼預言者イザヤの活動した時代も暗闇の時代であった。アッシリアの脅威にさらされる南王国ユダで、イスラエルの人々は浮足立ち不安をかかえながら日々を過ごしていた。そんな暗闇に光をもたらす救い主の誕生を預言するのが今日のイザヤ書9章、クリスマスの時期にもよく取り上げられる「メシア預言」の箇所だ。▼その預言の成就としてこの世にいられたイエス・キリスト。イエスの時代もまた「闇のような時代」であった。今日の新約聖書の箇所では、バプテスマのヨハネが捕えられたことが伝えられている。▼バプテスマのヨハネ。イエスの活動の準備をした人で、荒野を拠点に火のような激しい言葉で悔い改めを迫った。特にユダヤ人の選民意識による「特権」によりかかっていた人々に、容赦なかった。その姿勢は相手が当時のユダヤの最高権力者、ヘロデ・アンティパスでも変わらなかった。▼ヨハネはヘロデが弟フィロポの妻を我が物にしたことを正面から批判した。ヘロデは「厄介者」のヨハネを捕え、投獄してしまった。権力者に対して歯に衣を着せぬ態度で神の正義に照らして言うべきことを言うと、捕らえられてしまう...イエスが宣教を始めたのはそんな時代だったのだ。▼ところで、マルコでもイエスの宣教開始と、ヨハネの逮捕が関連付けて記されている。しかしそのニュアンスは少し違う。マルコはヨハネが捕えられるとすぐさま立ち上がるイエスの姿を描く。まるでヨハネの活動を引き継ぐかのように。しかしマタイは少し違う。ヨハネが捕えられると、ガリラヤに一旦退却される姿が描かれるのである。▼そう言えば、イエスが生まれた時に起こった幼児虐殺の悲劇の時も、イエスと両親は神のお告げを受けてエジプトに避難した。「一旦逃げることもアリだよ...」そんな風に記されるのである。▼権力者が我が物顔で振る舞い、反対者を追放し弾圧する、そんな時代は「闇のような時代」だ。そんな中をいかに生きればいいのか。マタイの記述はヒントを与えてくれる。▼ヨハネのように正面切って、弾圧覚悟で言うべきことを言う...そんな「カッコいい」歩みもあるだろう。しかしイエスは違う道を進まれる。最終的な対決は避けれないとしても、今は退却し時を稼ぎながら歩む。そしてそこで「いと小さき者」と出会い、身体と心を救う...そんな道をまず歩まれたのだ。▼暗闇に光をもたらす働きとは、闇をもたらす存在を打ち倒す「大きな力」によってではなく、イエスのように小さき者に寄り添い歩む愛の業の中からこそ生まれるのではないだろうか。